

表現を学ぶことは、人をまなぶこと



NPO法人シアターネット
ワークえひめ 理事
鈴木 美恵子(松山市)

◆ある演劇のおはなし

私たちのNPOは2007年10月にスタートしました。舞台芸術を軸とする文化芸術振興のための普及啓発、人材育成、創造空間整備という3本柱の活動は、やっと7年、まだ7年。果てしない道への試行錯誤は続きます。

先日ある劇団の一人芝居の中にこんな台詞がありました。主人公の青年は東北大震災直後、福島に行かずにはいられなくて、わが目で何かを確かめたくて、そこで出会った地域の人に、「私は東京で



C.T.T.

演劇をしています、そんな私にこの地で何かできることがあるのでしょうか？」と問います。そのおじさんは「人それぞれに役割があるから、その役割を果たしたらええんじゃないの」と。その後、青年はおじさんから貰ったジャガイモを持ち帰り、ポテトサラダにして、演劇関係者みんなの前で食べました。「僕はただ、いいカッコしただけなのではないだろうか？」と問いかけて芝居は終わります。

家を失い、身内を亡くし、仕事を失くした大変な状況の人が、それらを乗り越えて乗り越えて現実を受け入れ、演劇する青年に己の役割を果たせと諭す。それは残された命に対する自尊心をバネに生き直そうとするかのように感じました。同時に主人公の青年の福島に行かねばという衝動は、人の根源にある叡智を思い起こしました。

◆芸術は力持ち

アートには気付きや発見を促し、勇気を与え、人を繋ぐ力があります。一般人は生きるためには食物が必要ですが、心を満たすのは文化芸術だと考えます。そしてそれは人々の日々の営みを描くものでもあるのです。

バレエや演劇などの舞台芸術は「他者の芸術」と言われ、様々なアーティストが関わる総合芸術です。劇作家は自分ではない他者を通して自分の考えを表現し、演出家は作家という他者が書いた作

品を、役者、美術、音楽、照明、衣装他様々な他者と協働作業をします。そして最後には観客という他者の為に演じ完成させていくものです。一つの作品を作るのに、こんなに多様な人々と価値観や考え方を共有しないと成立しないのが舞台芸術なのです。そんな多様な創造力を含んだ作品を地元の人たちの手で作り、地元の人たちが見るといって、文化芸術の地産地消を促し、アートの魅力発信のための日々の活動をご紹介します。



シアターねこフェスタ

◆面白い、楽しい、必要ということ伝える

当NPOが拠点とするシアターねこで、日常的に地域の人々との繋がりを持つために、「シアターねこフェスタ」を毎年開催しています。地域の人が参加し



四国劇王

◆地域の担い手とともに
・四国劇王

「四国劇王」という短編演劇フェスティバルを、四国4県から応募者を募り開催しています。日本劇作家協会とも協力し審査員の幹旋をお願いしています。相互に作品発表の場を共有し切磋琢磨し、

やすい内容を心がけ、子ども向けの科学とアートを融合した「不思議なものづくり」、子どもアート体験「色と形」ダンボールで迷路、全国高校演劇大会で優良賞を受賞した地元松山東高校演劇部公演、大人も子どもも楽しめる「歌と砂絵のコンサート」、松本紀生フォトライブ、お笑いライブ等々、毎年300人以上の参加があります。それ以外にも地域の人の文化芸術発信として「シアターねこ新聞」を発行し、近所のお店紹介をしたり、NPOのチラシを置かせて貰ったりという交流が生まれています。寄贈の書籍で図書スペースを設け無料貸出も行っています。

交流し合う場として継続しています。年々参加団体数は増えていき、他県での公演も可能になっています。今年度は18団体が応募してきました。

・国際演劇交流セミナー・
オーストラリア特集

日本演出者協会と協力して、地域の演劇関係者のスキルアップや視野の拡大のためのワークショップやレクチャーを開催しています。

度は世界的な劇作家アンドリュース・ボベル氏や演出家のオーブリー・メロー氏をお招きし、オーストラリアの歴史、演出、劇作などを学び、レクチャーには一般の市民の方々も参加してくださいました。

・戯曲講座

誰でも台本が書ける、をコンセプトに昨年度は名古屋から平塚直隆氏をお招きしました。台本なんて書いたことも無い人が沢山参加し、それをリーディングという手法で発表し合いました。そんな中から、将来の劇作家が生まれ、今までも数々の地元作家を輩出しています。

・C.T.T.

C.T.T. (コンテンツポラリー・シアタートレーニングの略) は年4回、開催しています。演劇、ダンス、アートパフォーマンスなら何でも構いません。自分のやりたいことを観客に見てもらい批評して



国際演劇交流セミナー・オーストラリア特集

もらいます。そして全国に広がるC.T.T.事務局と連携し、作品を他県の観客に見てもらおうという交流をしています。

◆新しいひろばとしての
シアターへ

松山市内には、公共のホールは4カ所ありますが、地域の人の作品発表の場には、広すぎるという声があります。常々私たちは、人が集まりやすく、使いやすい手頃な空間で、アート情報を集積できる場を探していました。紆余曲折の結果、2012年5月、「シアターねこ」を設置しました。資金はNPOのメンバーが出し合い、一部県の財団からの助成を受けて整備しました。民間の粗末な作りではありませんが、演劇、ダンス、落語、コンサートなど使い方は様々です。管理は地元演劇関係者がボランティアで関わってもらうことであるうじて維持しています。「シアターねこ」は地域の文化活動拠点として全国から注目され、今年は東京や九州から劇団がやってきます。この場を多様なアートと異世代間交流が生まれる「新しいひろば」「新たな公共空間」として育み、地域コミュニティの再生・活性化の拠点としていきたいと考えています。